

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた等々力保育園
施設所在地	世田谷区等々力3-27-15パークハイム等々力三丁目志番館
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本の読み合いから始まる遊びの環境～五感を通じた遊びの広がり～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

1歳児クラスでの絵本の読み合い活動では、絵本の視覚的な部分を楽しむだけでなく、耳から入ってくる言葉のリズムに体を動かしたり、現実と虚構を行ったり来たりしながらの再現遊び、つもり遊びなどへの繋がりが多く見られる。個々の興味関心から五感が刺激されて遊びに広がるのが、「絵本が好き」「読み合うことが楽しい」の土台となっている。絵本を読み合う中でそれぞれの興味関心が五感を通じてどのように発展し、遊びや生活の中に取り入れられ、広がっていくのか、一人ひとりの姿から環境を考え探求していきたい。

2. 活動スケジュール

8月	ソファ購入
9月	絵本用ワゴン購入。ソファと併せて「絵本コーナー」の環境。
8月7日	音楽会講師との打ち合わせ(対面)
9月12日	音楽会講師との打ち合わせ(zoom)
10月3日	音楽会の実施
	赤ちゃん人形、以前からあった布おもむつを用意、お世話遊びコーナーの充実
	これら二つのコーナーを近接させることで自分のされていることや家庭生活の再現がイメージしやすい環境設定
12月	ままごとテーブルを新規購入、食事に関する遊びに広がりを持たせる環境作り
1月	おもちゃの電子レンジ購入し、ままごとコーナーを更に充実させる
1月	活動のまとめ

人形、以前からあった布おもむつを用意、お世話遊びコーナーの充実
これら二つのコーナーを近接させることで自分のされていることや家庭生活の再現がイメージし

【絵本を読む環境づくり】

- ・絵本用ワゴン、ソファの購入。子ども自らが絵本を選んで手に取り、ゆっくりと楽しめる環境づくり
- ・日課の中で、無理なく「少人数で絵本コーナーで過ごす時間」を作る

【音楽遊びへの展開】

- ・歌絵本
- ・電子ピアノを用いての音楽遊び
- ・音楽会の設定 事前に講師となるシンガーソングライターに来園していただき担任と会の内容を検討。
- ・楽器作り
- ・保護者も参加して、音楽会の実行。

【再現遊び・つもり遊びの展開】

- ・テーブル、おもちゃの電子レンジの購入、ままごとコーナーを充実 ・人形お世話遊びコーナーの充実
- ・これら二つのコーナーを近接させることで自分のされていることや家庭生活の再現がイメージしやすいようにする

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 安心できる環境で自ら絵本を手に取り読むことの出来る環境を作り、また、少人数で読み合いを重ねることで、子どもたち一人一人が絵本から感じていることを丁寧に観察する。
2. 歌絵本を軸に読み合いを展開し、製作も含めて、様々な方法で表現を楽しむ姿を観察。
3. 音楽会。事前に子どもたちの今の興味関心と発達について講師と担任が共有し、アドバイスをいただいて内容を検討。
4. 1歳児の発達として生活の再現遊びへの意欲が高まることが予測される中、季節的にケーキ作りを家庭で行いそれを再現する様子もみられたので、ケーキ作りをする絵本、身近な食材の出ってくる絵本を読み、遊びが深まる環境として、ままごとの道具やお世話遊びのコーナーを充実させる。
5. 1歳児にとっての絵本の読み合い活動の過程を振り返り、その意味を考え、発信する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

日課の中で無理なく「少人数で絵本コーナーで過ごす時間」を作ったことも奏功し、子どもたちのリクエストに応じて(興味関心に沿って)一緒に読む本が決められていった。

歌絵本の読み合いでは数字や絵本に広がりを見せる子も見られた。ピアノを用いたことで小さな音楽会のような雰囲気が出、ピアノや歌に合わせて全身を思い思いに動かす様子が見られるようになった。日々繰り返していると、あまり興味を持っていなかった様子の子が小さく身体を動かしていたり、歌に合った絵本を保育者に渡してくるなど、それぞれの子なりに音楽を楽しんでいることが分かった。「合いの手」を入れて歌を盛り上げる子、それが楽しくて真似をする子も出てきた。同じ空間で音楽に合わせて身体を動かす中で、顔を見合わせたり笑い合ったりする姿が見られるようになり、「一緒に楽しい」という気持ちが育まれ、他者を意識して関わる経験をしていることが観察された。更に歌によって身体の動きや表情を変える子も見られ、言葉と感情、その表現についての理解や成長が感じられた。

楽器作りの過程は主に指先を使う作業であったが、色や個数など絵本読みから広がった子どもの関心を引き継ぐ言葉かけや素材を保育者が用意・提供する中で、愛着のあるものを作ることができた。

食材の出ってくる絵本からは、野菜を触るという食育への関心が高まったり、室内・園庭でのままごと遊びに内容が再現されていた。絵本で見たものを同じものと認識し、重さや固さを実感していることがあった。園庭でケーキ作りの過程を再現しながら、水を含んだ砂の重さや千切った葉っぱの匂いに気づくこともあった。乗り物の出ってくる絵本では歌に繋がったり、ブロックで傘など身近な物を作ったり、室内の遊具で同じものを見つけて持って来る姿があった。ままごと・お世話遊びが広がるよう、少人数でじっくり遊べる空間や道具を用意すると遊びが深まり、環境を整えることの意義を感じた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵本の読み合いは日頃から行ってきた活動であり、そこから派生するごっこ遊びなどは既に見られていたことではあった。今回、子どもたちの絵本読みから影響される姿を丁寧に拾い、予想される、発達に合わせた環境を用意することで、子どもたちの「遊び」が生まれる様子が明確に見て取れた。虚構と現実を行き来し、全身を使って五感でその世界を感じ思い思いに表現を楽しむ時期を積み重ねさらに、一人の体験がクラス全体の体験となるなど互いに影響し合いながら成長していることがわかった。保育者と1対1の活動での安心感、身体表現として体を動かすきっかけ、再現やつもり遊びでのイメージの再構築など、絵本の提供する要素は多岐にわたる。今後も、子どもの興味関心に沿う絵本を選んで共に読み合うことを積極的に行い、子どもの気づきや発達の様子を観ることで、次の環境の用意をする手立てとしていきたい。